

女性部通信



1年の折り返し地点が過ぎました。各学校では、学校祭や体育大会等、行事が盛りだくさんな頃と思います。

女性部通信第2号では、8月に開催された「全国母と女性教職員の会」や「北陸ブロック母と女性教職員の会」、各支部女性部での学習会や講習会の報告を中心にお知らせします。今年度の様々な活動やとりくみについて、ご要望やご意見がありましたら、いつでもお声をお寄せ下さい。

県教組 吉田 TEL 0776-23-1887

全国母と女性教職員の会



2014年度は会場をこれまでの日比谷公会堂から、「かつしかシンフォニーヒルズ」に変え、母女運動61年目の集会として8月1日～2日に行われました。今年のテーマは

「子どもたちに未来を ーともに築こう 戦争のない社会をー」で、福井県からは、保護者6名と女性教職員9名、県教組本部2名の17名が参加しました。1日目の全体会では、沖縄県教組から平和にかかわる報告がなされ、その後、文芸評論家の斎藤美奈子さんから「何考えてんの？安倍政権～まず知るところからはじめよう～」というテーマでの講演がありました。「集団的自衛権って何ですか？」・「自民党改憲草案のポイント」という内容で、現政権が7月に閣議決定した集団的自衛権の行使を容認する憲法解釈の変更についての問題を取り上げた講演でした。参加者からは「改めて怖い閣議決定がされてしまったんだと気がつきました。親も勉強して、『戦争をしない・させない』ことを日本から発信していかないといけないと感じました。」という感想等が寄せられました。

2日目は、15の分科会に分かれて参加しました。福井県は第10分科会「これからの教育」において大飯支部の吉田東庸子先生が「地域に学び、地域の人々に学ぶ活動を通して」をテーマに発表されました。過疎化の進む地域において、地域と学校が密接に結びついて活動していることで、「児童生徒と地域の人々とのつながりが強くなったこと」や「児童生徒の地域を思う気持ちに深まりが出たこと」、「地域の活性化につながってきていること」の報告でした。内浦中学校の実践を中心に大飯郡の各小学校のとりくみも紹介していただきました。会場の参加者からは、「生徒発信の情報をネット等にも広げて、観光にぜひ生かしていくと良い。」という声もありました。



参加された皆さんからは「いろいろな県での実践が聞けて大変勉強になった。」や「全国の教育情勢がわかり参考になった。」、「現在抱えている問題は一人では解決できなくても、多くの人がつながりみんなの問題としていくことで、解決できることを実感した。」等の感想が寄せられています。



北陸ブロック母と女性教職員の会



「第61回北陸ブロック母と女性教職員の会」が8月22日～23日、新潟県で開催されました。保護者7名と女性教職員10名、退職教職員1名、県教組2名が参加しました。

1日目は全体会で、新潟県教組女性部長の基調報告の後、作家落合恵子さんの講演会がありました。「いま、いのちから・・・平和のためにひとりひとりができること」というテーマで、集団的自衛権行使の問題など、今の政治の危うさや平和の尊さ、生きることの素晴らしさ等を熱く語っていただきました。時に涙を浮かべ、時に言葉詰まらせながらも、「あなたの人生を生ききってください。」「あきらめずにもえつきなさい。」と語る彼女の言葉に会場全員が感動して聞き入りました。途中、参加者に手話ができる人を尋ねる場面があり、越前支部の上坂朋子先生がステージに上がり、歌に合わせて手話を披露し、会場を盛り上げていただきました。

2日目は7つの分科会に分かれて参加しました。福井県は、第3分科会「学校・地域・家庭」と第7分科会「平和・環境」で提案発表をしました。第3分科会では、越前支部王子保小分会の上坂朋子先生が、「花筐小学校『森のわくわく図書館』誕生物語」の実践を、第7分科会では、勝山支部成器西小分会の油谷圭子先生が「自然だいすき！かっちゃんまっ子」の実践を発表されました。



紙芝居を使って、読み聞かせボランティアの保護者の方と一緒にとりくみを発表していただきました。学校図書館リニューアルから様々な形へつながっていく、保護者との広がりや深まりを感じた花筐小学校の工夫ある実践内容でした。掲示された資料も素晴らしかったです。

豊かな自然環境を生かして、それぞれの学校が工夫して教育活動を行っている様子がわかる発表でした。地域の資源と人を上手に活用し、勝山市全小中学校がユネスコスクールに指定されています。



第1分科会「小学生」では、丹生支部朝日小分会の眞田美穂子先生と鯖江支部立待小分会の小柳幸代先生がコーディネーターとして分科会を進行・まとめられ、大役を果たされました。越前支部吉野小分会の玉木晴美先生には第3分科会の記録として、勝山支部平泉寺小分会の西川直美先生には、第7分科会の記録としてご尽力いただきました。どの分科会でも母親と女性教職員がそれぞれの立場で意見を述べ、子どもとかわる上で子育ての中で大切なことを共有しました。北陸ブロック（新潟・富山・石川・福井）の母親・女性教職員との連帯を深めることができた有意義な2日間となりました。



各支部からの活動報告

福井支部

【学習会－原発3キロメートル圏からの脱出－】

8月5日（火）38名参加



講師の川崎葉子さんは、福島県双葉町のご出身で、福島第一原発一号機から3キロメートルの所に自宅がおありになりました。講演では、東日本大震災当時のお話、福井に避難されてから現在までの状況等、そして未来についてわかりやすく、力強くお話をくださいました。被災ネットワークの会「FFF（ふふふ）の会」を設立され、福井と福島を往復しながら、支援活動を続けていらっしゃいます。

震災の報道以上の悲惨な様子や震災後3年半たった今も、多くの方が先の見えない深い苦しみの中にいらっしゃることを聞いて、これから私たちは何をすべきか、改めて考えさせられた学習会でした。

丹生支部

【寄せ植えを楽しもう】

8月6日（水）38名参加



たくさんのきれいな花に囲まれて、久しぶりに、心がうきうきしました。講師の先生がとてもお話上手で、上手に育てられそうな気持ちになりました。寄せ植えは初めてでしたが、こんな学習会なら、また参加したいなあと思いました。

越前支部

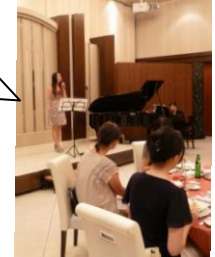
【JAZZ コンサートを楽しみながら地産地消のイタリアンを味わう】

8月11日（月）35名参加



地産地消のイタリアンを味わいながら、料理を作ったシェフから本場のイタリアンの食文化や食事マナーを学びました。福井県で作られたズッキーニやトマトなどを取り入れた夏らしいメニューで、調理法や効能について学びながら、改めて福井県の豊かな恵み、地産地消の素晴らしさについて理解を深めました。

JAZZ は歌詞や曲調が時代を反映しているのもであると知りました。優しいピアノの音と歌声が心地よく体と心に入ってきて、包み込んでくれているような気持ちになって、至福のひと時になりました。



三方支部・大飯支部の講習会・学習会の報告は次号に掲載します！

大野支部 12月25日(木)
フラワーアレンジメント講習会

吉田支部 12月24日(水)
フラワーアレンジメント講習会

勝山支部 冬休み期間中
フラワーアレンジメント講習会

小浜支部
冬休み期間中 開催予定

どの支部も参加して楽しいものを企画されています。みなさん、ふるってご参加ください!

コーヒータイムでちょっと一息

コーヒータイムで出されたご意見を各支部女性部長までご提出下さい。皆さんからのご意見を「政策懇談会」や「教育長と語る会」「義務教育課事務レベル折衝」等での専門部交渉に活かしていきます。

今後の女性部の予定 (9月~1月)



11月8日(土) 第64次教育研究集会(勝山南部中学校)

*「県母と女性教職員の会」が第12分科会として開催されます。

12月 義務教育課事務レベル折衝

*コーヒータイムでの皆さんの声を集約して、義務教育課と交渉します。

1月 教育長と語る会

この夏、初めて広島に行きました。連合女性委員会の平和行動に参加するためです。69回目の広島原爆投下の日は46年ぶりという小雨の中でしたが、大勢の参列者で平和公園は埋め尽くされていました。原爆ドームをはじめとする様々な戦争の傷跡は、やはり胸に迫るものがありました。祖父母や父母から戦争の悲惨さの話を聞いていたけれど、目の前にある戦争被害者の遺品や言葉は想像を超えていました。また、原爆被災者でありながら語り部をされている89歳の坪井直さんの講演は涙なしには聞けませんでした。熱い語りから出てくる内容は重く、悲惨そのものでした。“生かされている”と語った坪井さんの生きる姿勢や生き様に心から感動しました。さらに、私が驚いたのは、「外国人」の参列や資料館見学者の多さです。日本人でありながら初めて広島を訪れた私は恥ずかしい気持ちになりました。千羽鶴を抱えた幼子、花束を抱えた家族、ボランティアをされている人等、広島のかかえているものの大きさを改めて感じました。そして平和の大切さ・戦争の悲惨さ、むごさを語り継いでいかなければならないと、強く思いました。